

「現地を訪問して想うこと」

1、福島 of 風評被害

平成25年11月23日、JR福島駅よりバスにて雄大な磐梯山を見ながら「会津活・活自然村」に着く。そこには、この村の代表高橋千鶴子さんや役員の方々が熱い芋汁等を用意して待っていて下さった。ここでは多くの材料でミネラルの入った発酵肥料を作り、それにより栽培されている野菜畑を見せて頂いた。この自家製肥料と無農薬で栽培された野菜が風評被害にあっているという。それも地元の学校給食でさえ使ってくれない。やはり原子力発電所の爆発事故による放射能は人類最大の恐怖なのである。

次に老舗の「末廣酒造(株)」を見学させて頂いた。手造りの工程を丁寧に案内して頂き、酒造りの奥の深さに感銘をうけ、新酒の試飲をしながら迅速な復興を願った。

なお、上記の2つはネットショップ“福島屋商店”を通じて全国に販売している。全国の皆さん、ぜひご協力をお願いします。

2、福島 of 観光

当日の夜は、歴史が深くまた竹久夢二など幾多の墨客が愛した名湯「会津東山温泉」で宿泊した。

ここは大震災の際多くの被災者を受け入れたことでも知られている。ここでの勉強会と交流会では、桑原勇健会長や馬場幸蔵幹事長から福島県の置かれている現状や原発事故による風評被害の実態などの説明があり、除染作業や復興事業の進まない状況に心が痛んだ。

翌日は最初に鶴ヶ城を一望する飯館山に登り、そこに祀られる白虎隊の墓に線香を手向け、少年達の無念に思いを巡らした。次に江戸時代会津西街道の宿場町として栄えた大内宿を散策した。ここは国が指定した重要伝統的建造物群保存地区で、道の両脇に建つ茅葺きの美しい家並みに往時を偲んだ。

最後は会津藩校日新館の見学である。建物は昭和62年に復元されたものであるが、有名な“ならぬことはならぬものです”で結ばれる「仕の掟」の精神が生きているような、一種のさわやかさを覚えて会津を後にした。

3、福島 of 応援

今回の応援ツアーでは、美しい大自然に抱かれた歴史の会津における、“理不尽な風評被害”に対して私たちはどのように立ち向かうべきなのかを再認識したものであった。

また辛抱強い会津魂の中に見える温かい人情の琴線に触れ、こちらの方が『応援されたツアー』であった。お世話になった会津の皆様、本当にありがとうございました。一日も早い復興を心よりお祈りいたします。